

熊本空港特定運営事業等
マスタープラン
熊本国際空港株式会社



世界と地域にひらかれた九州セントラルゲートウェイ

地方空港No.1の国際線ネットワーク



交流人口の拡大による“**創造的復興**”への貢献



(注) 地方空港には、東京国際空港（羽田）、成田国際空港、関西国際空港、福岡空港、新千歳空港、那覇空港、大阪国際空港（伊丹）、中部国際空港は含まない

熊本空港に係る事業期間全体を通じた5つの基本方針



世界水準の空港体験の提供



東アジア路線の戦略的誘致



二次交通の拡大・拡充



地域との連携強化による需要創造



空港全体のレジリエンスの確保

2051年度目標値

5つの基本方針に基づく施策を実行し、以下の目標を達成します

- ◆ 旅客数 **622万人**
- ◆ 貨物量 **4.2万t**
- ◆ 路線数 **28路線**
- ◆ 便数 **433便**
- ◆ 航空系収入 **27億円**
- ◆ 非航空系収入 **145億円**
- ◆ SkyTrax **5スター**取得
- ◆ 総合満足度 **8.0**取得
(航空サービス利用者)
- ◆ 総合満足度 **8.0**取得
(非航空サービス利用者)



創造的復興のシンボル

国内線・国際線一体型の新旅客ターミナルビル

(2023年供用開始予定)



制限エリア内
店舗面積

54㎡ → 2,500㎡

免税店舗
面積

現状の約10倍

ピーク時
最大待ち時間

30分 → 10分以内

スポットの再編・増設

地域にひらかれた
商業施設

地域にひらかれた
広場

二次交通機能の
強化

国内初の滞在型 ゲートラウンジ

- ◆保安検査後の待合エリアに、搭乗直前まで締切時間を気にせず、快適な時間が過ごせる「滞在型ゲートラウンジ」を整備
- ◆滞在型ゲートラウンジは、「内際共用」として、国際線旅客も利用可能

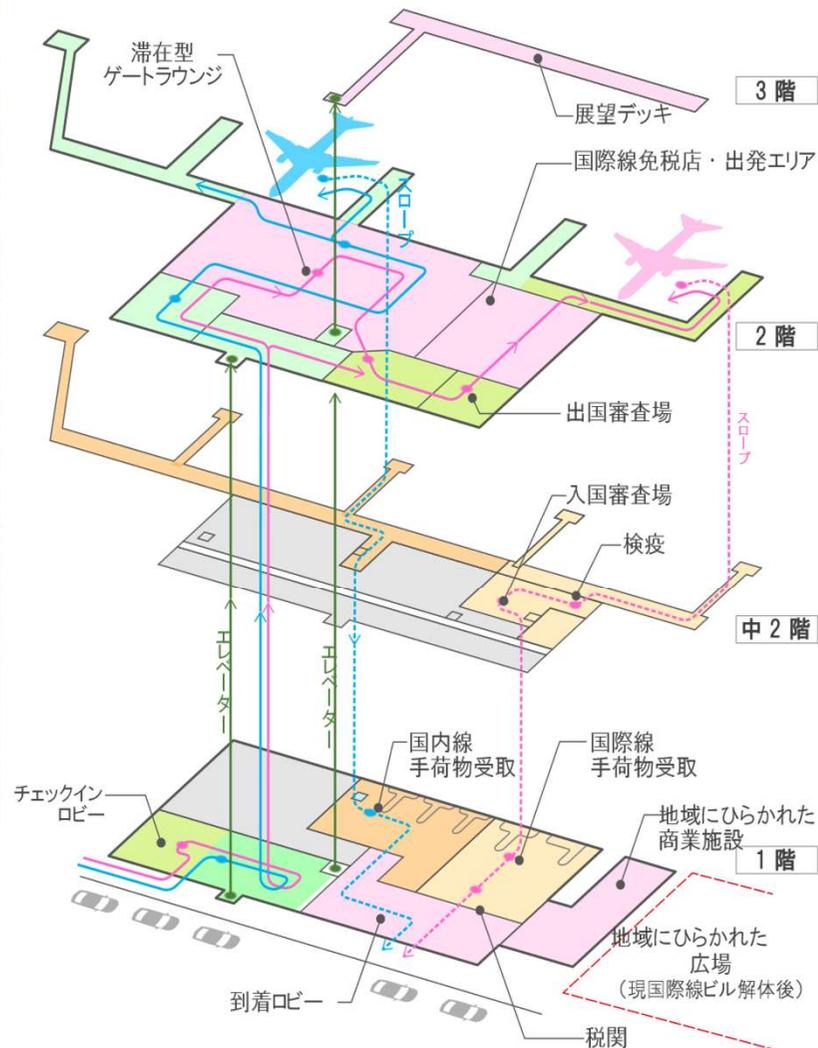
ファストラベル の推進

- ◆国内基幹空港で導入されているファストラベルを推進する最先端機器を導入し、待ち時間が少なく、スムーズな移動を実現
- ◆ストレスのない空港体験を提供し、何度も利用したくなる空港へ

安全・安心を 提供する強靱な ターミナルビル

- ◆繰り返し発生する大地震にも耐える構造を備えるとともに、電源・通信・上下水道などの各種ライフラインを確保
- ◆災害時でも、全ての空港利用者が安全かつ安心して滞在できる機能を提供

新ビル施設供用開始時における施設に係る図面



凡例

- 国内線 出発旅客動線 → 国際線 出発旅客動線 国内線 出発 国際線 出発
- 国内線 到着旅客動線 → 国際線 到着旅客動線 国内線 到着 国際線 到着

新ビル施設整備を目的とする
設備投資の投資総額

183億円



世界水準の空港体験の提供

■ 創造的復興のシンボルとなる新ビル施設



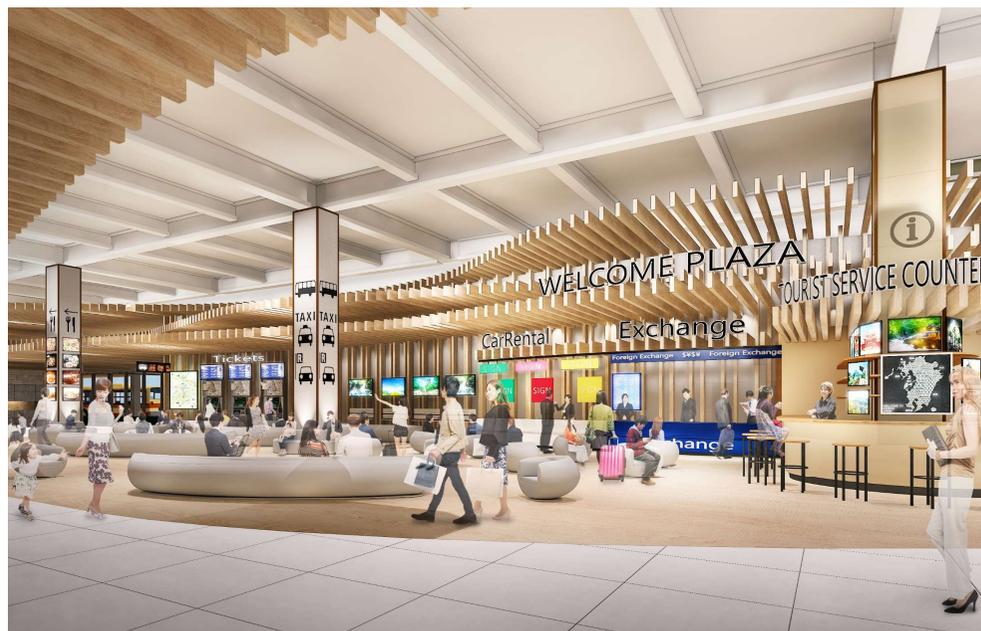
■ 多様な時間の過ごし方を提供する滞在型ゲートラウンジ



■ 空の旅の始まりを快適にサポートする、広くて開放的なチェックインロビー



■ 熊本・九州観光を快適にするための各種サービスを提供する到着ロビー





東アジア路線の戦略的誘致

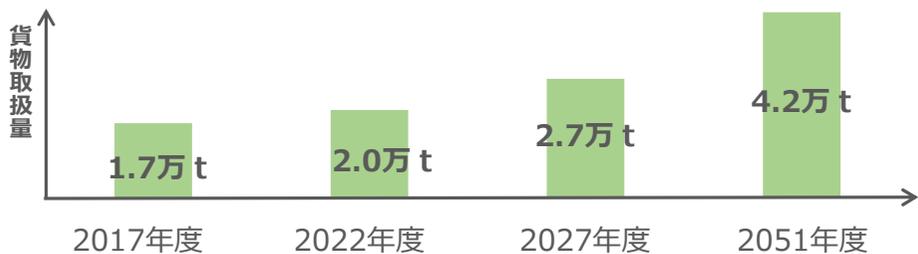
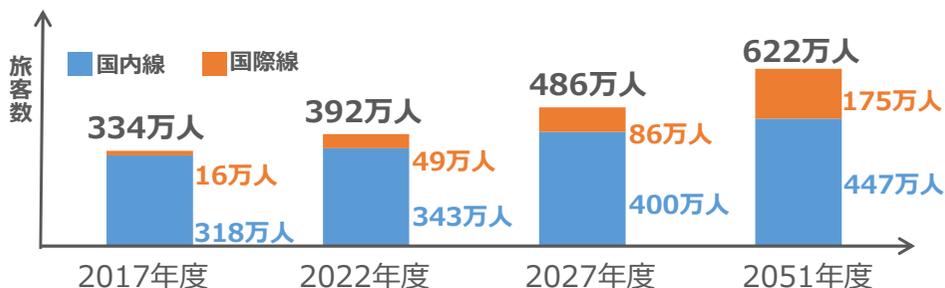
エアライン誘致施策

- ◆エアライン誘致体制の整備（専任部署の設立）
 - ・航空業界経験者等の航空業界に精通した人員からなるエアライン誘致の専門部署を整備
- ◆誘致活動
 - ・東アジア圏、九州内における熊本空港の地理的優位性を訴求
 - ・エアラインの意思決定プロセスを踏まえた誘致活動
 - ・構成員が有する海外拠点ネットワークを活かした誘致活動
- ◆エアライン受入れ環境の整備
 - ・グランドハンドリング機能の拡充
 - ・マルチスポット等の整備

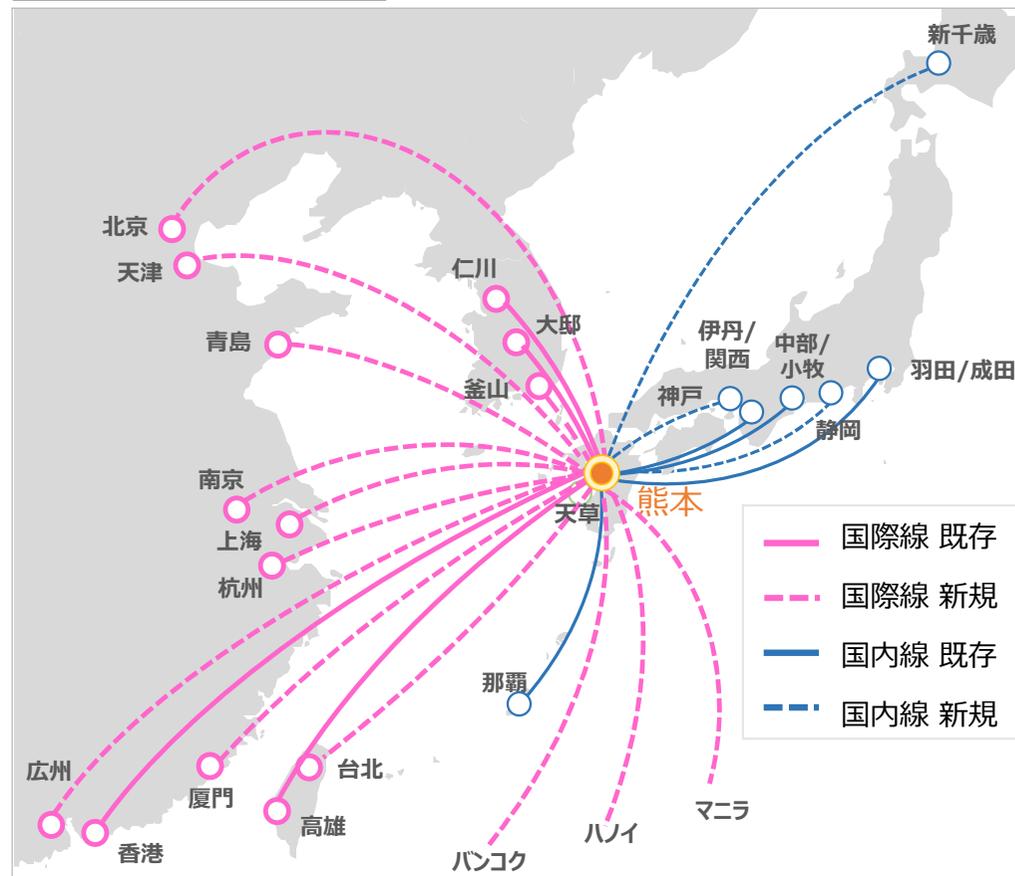
着陸料等の料金施策

- ◆就航しやすい基本料金の設定
 - ・国内線・国際線双方が受け入れやすい料金体系に変更
 - ・固定料金低減により就航しやすさを向上
- ◆インセンティブの提供
 - ・重点ターゲットの就航意欲を喚起するインセンティブの提供

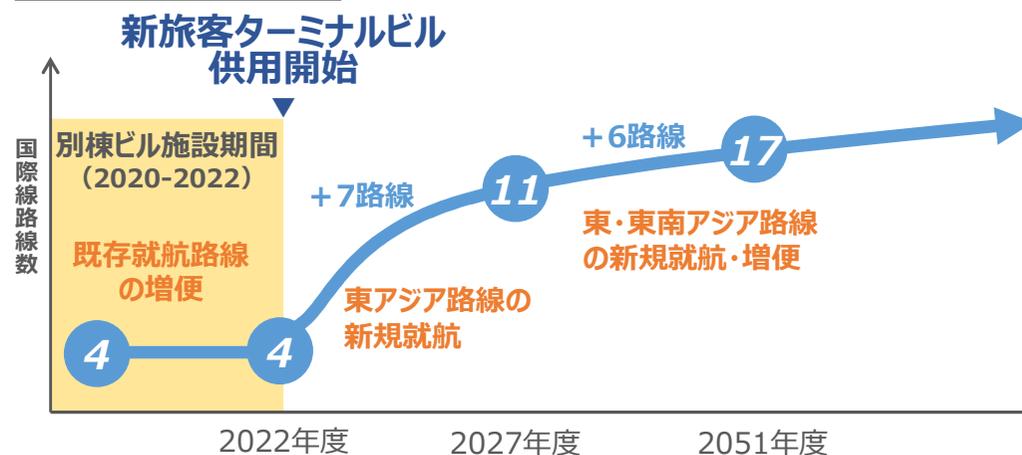
旅客数・貨物取扱量の目標値



将来の航空ネットワーク（案）



国際線の想定就航路線数



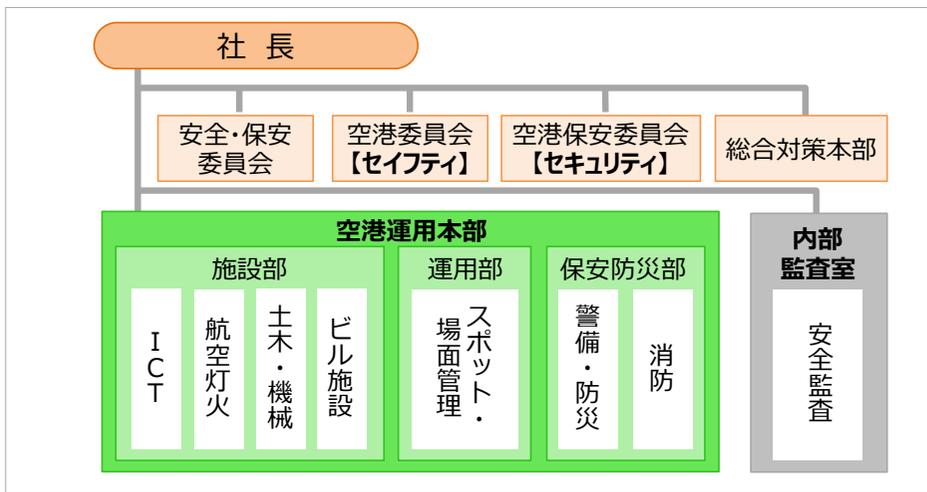


空港全体のレジリエンスの確保

安全・保安に関する基本施策

- ◆安全・保安の関係組織は社長をトップとし、平時の安全・保安管理から災害発生時の対応まで、迅速かつ強力な推進力を持つ体制を整備
- ◆空港運用経験者等の採用により国の安全・保安業務を確実に承継し、保安管理規程（セーフティ編、セキュリティ編）に基づく、着実な安全・保安業務の実施

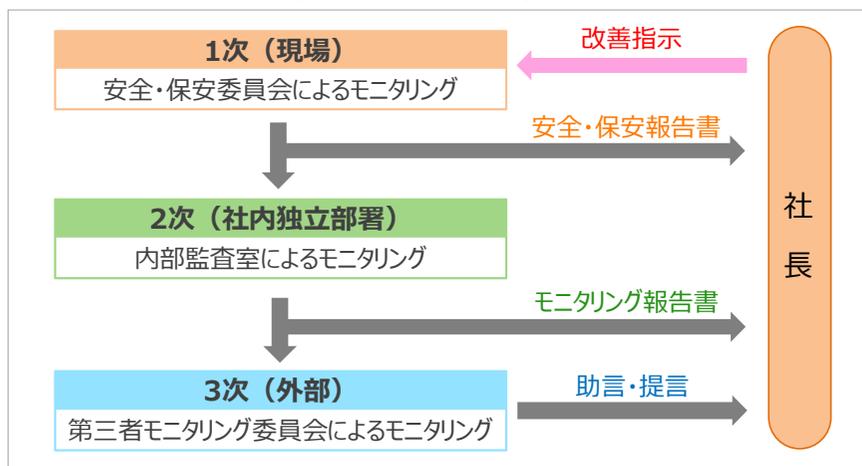
安全・保安に係る組織



安全・保安に関するセルフモニタリングの基本方針

- ◆複層的モニタリングと構成員の支援・指導による実効性の高いモニタリングにより安全・保安を向上

複層的モニタリング体制



二次交通の拡大・拡充

- ◆市内交通拠点との接続を強化
- ◆バス路線を拡大
 - ・九州全域へアクセスしやすい地理的優位性を活かし、九州の各観光地等へバス路線を拡大
 - 【現状：11路線 → 将来：23路線】
- ◆二次交通モードの多様化
 - ・空港アクセス鉄道の引込みなど、二次交通モードを多様化し、アクセス利便性を向上

将来のバスネットワーク（案）



地域との連携強化による需要創造

熊本県の空港の将来構想の実現に係る協力

- ◆航空ネットワーク拡大や空港アクセス改善、広域防災拠点としての機能強化等、空港周辺地域の活性化に繋がる取組みを通じ、県の創造的復興の実現に貢献

空港利用促進事業の施策

- ◆県や関係地方自治体と連携体制を構築し、官民連携による航空ネットワーク・航空需要拡大施策を実施
- ◆九州内の各地域と連携したエリアセールスを推進し、航空需要拡大を実現

地域共生事業の施策

- ◆空港事業に対する周辺地域との相互関係に向けた取組み
- ◆地域とともに成長するための助成事業の実施
- ◆環境対策への取組みと情報発信強化
- ◆空港を活用した地域の発展に貢献する取組み

新旅客ターミナルビル供用開始までの施策

- ◆新旅客ターミナルビルの完成までの期間も、利用者の利便性の維持向上に向けた取組みを実施
 - ✓ 商業機能や待合機能を補完するサテライトビルの整備
 - ✓ 国際線ターミナルビル内の免税店舗や待合機能の強化
 - ✓ 立体駐車場等の整備による駐車場の容量拡大と利便性向上

当初の事業期間終了（2051年）時の施設等配置図及び各施設等の概要

1 新ビル施設

- ◆内際一体型ターミナルビルを整備（施設規模 約37,000㎡）
- ◆現国際線ビル施設撤去後に、新ビル施設のコンコースを延伸し、別棟ビル施設コンコースと接続
- ◆2035年度を目処に東側及び西側に増築（増築面積 約3,000㎡）

2 地域にひらかれた商業施設

- ◆「食と旅」をテーマとした施設を整備（施設規模 約1,200㎡）

3 別棟ビル施設

- ◆新ビル施設供用開始後に、事務所施設に改修

4 地域にひらかれた広場

- ◆現国際線ビル施設撤去跡地に広場を整備（広場面積 約3,000㎡）

5 交通広場

- ◆団体バス乗場、レンタカー送迎場を整備（面積 約3,500㎡）

6 貨物ビル施設

- ◆貨物ビル施設の運用を止めないために、隣地に移転建替え（延床面積 約2,100㎡）

7 立体駐車場

- ◆約800台収容可能な立体駐車場を整備（施設規模 約20,000㎡）

8 平面駐車場

- ◆需要にあわせ段階的に整備（合計 約1,300台）

9 給油施設

- ◆将来の路線増加を踏まえ、給油タンクを1基増強

10 ホテル

- ◆別棟ビル施設の南側用地を候補地として、ホテルを誘致（想定延床面積8,400㎡）

11 空港基本施設等

- ◆#1、#2スポットなどを更新しエプロンを拡張
- ◆スポット数を増加し空港機能を強化（10→13スポット）

新ビル施設供用開始（2023年）後の空港の機能維持及び活性化を目的とする設備投資

空港基本施設等	263億円
新ビル施設	241億円
別棟ビル施設	25億円
貨物ビル施設	9億円

その他		62億円
内訳	地域にひらかれた広場	2億円
	I C Tシステム	53億円
	給油施設	7億円
	子会社関連施設	0.3億円
合計（修繕費含む）		599億円

